

## 長崎市版DMO研究会 第1分科会 第4回議事録(要約)

1. 日時 平成29年11月21日(火) 13:00~17:00
2. 場所 アマランス第3会議室
3. 参加者 アドバイザー：DMO推進機構 大社代表理事  
専門委員：長崎大学経済学部 村田教授  
長崎経済同友会 平松副代表幹事、  
長崎経済研究所 小川社長  
ながさき地域政策研究所 菊森理事長  
長崎国際観光コンベンション協会 村木副会長  
事務局：長崎市文化観光部 濱田課長、中島主幹、浦川係長、松山  
長崎国際観光コンベンション協会 外園本部長、川崎統括部長、寶珠統括部長、  
森下部長、
4. 資料 資料1 第1分科第3回議事録  
資料2 第3回経済団体等協議部会議事録  
資料3 DMO必要性等(新たなステージに向けて、DMO方向性、推進体制等)  
資料4 組織体系別事業戦略  
資料5 年度別業務および予算

### 5. 議事内容

- (1) 第3回会議の議事について(確認) 【資料1、2】
- (2) 長崎市版DMOの方向性(組織の役割と機能と推進体制) 【資料3、4、5】

#### 【主な議事】

- ・議事確認(資料1、2)・・・第3回議事内容の要点説明
- ・DMO必要性等の要点説明(キックオフに向けての説明資料確認)
- (主な意見)
  - ・資源磨きの定義を明確にすること
  - ・資源磨きは、受け手にとっての視点で具体的に表現すべき
  - ・長崎市関係課長会議において、「地域」とある表現を「長崎市」と記載すべき。市民のかかわり具合が不明。バラバラ度とは、誰が誰になのか不明。との指摘があった。
  - ・長崎市の総合戦略に沿って説明すべき
  - ・市民に分かりやすい資料にしないといけない
  - ・オール長崎の体制は、市民や多くの方に特に若者が中心で関りを見せる事が必要。
- ・(資料4、5)・・・要点説明
- (主な意見)
  - ・事業から組織を組み立てること。数値目標、責任の所在を明確に。

- ・長崎市の体制も横ぐしが必要。
- ・長崎市の機能を外に出す（民間）やり方もあり（コストセンター）
- ・DMO が自ら人材育成をするのか決めないといけない。DMO は何をする組織なのか明確にすること。事業に優先順位を決めて取組む事が必要。
- ・データ収集・分析するが、民間に活用してもらえるのか。データ読み取る人材が居ない。
- ・データ読み取るプロジェクトが必要。
- ・地域の方にも参画しデータ分析に取組みが必要。データ活かせていない。
- ・民間の協力を得てマーケティング委員会を立ち上げ可視化していく。
- ・長崎市と DMO の業務役割を決めないと体制が決まらない。
- ・責任者（トップ）が決まらないから何も決まらない。
- ・CEO、各部長に誰が担うのか人材が重要。
- ・経済界から人材の支援協力を得ることも必要。
- ・物販販売拡大については、DMO として拡大していくのは良いと思うが、民間企業がどう思っているか見えない。